

中部中学校だより

きずな

令和 6 年 9 月 日発行
第 13 号
亀山市立中部中学校
亀山市田村町 75 番地
☎：82-2101
文責：平野



全国学力・学習状況調査、みえスタディチェック結果概要について①

4月18日(木)に3年生が実施しました全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表されました。本校におきましては、調査の結果を分析し今後の教育活動に

令和6年度全国学力学習状況調査 結果概要		
3年生正答数		
	国語(問題数15)	数学(問題数16)
本校の平均正答数	8	7.4
全国の平均正答数	8.7	8.4
令和6年度みえスタディチェック 結果概要		
2年生正答数		
	国語(問題数16)	数学(問題数20)
本校の平均正答数	8.19	9.5
県の平均正答数	8.17	10.2
1年生正答数		
	国語(問題数14)	数学(問題数17)
本校の平均正答数	9.4	9.9
県の平均正答数	9.2	10

生かしていきたいと考えています。学校だより「きずな」第13号、第14号では、同時期に1・2年生が実施しました「みえスタディチェック」の結果の概要とあわせて報告をさせていただきます。お子様の家庭学習や日常生活をふりかえっていただく1つの機会にしていただければと考えています。まず今回の「きずな」では学習調査の結果概要を報告いたします。

本校の平均正答数と各調査の全国・三重県の平均正答率は左表のとおりとなっております。

全国・三重県の平均とマイナス5ポイント以上マイナスであった問題の数は、3年生の国語5問、数学8問、2年生の国語3問、数学6問、1年生の国語2問、数学3問でした。3年生国語では、「漢字の書き取り」(「みちたりた」を漢字で書く)、「短歌の技法を問う問題」、数学では、「 n を整数とするとき、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式であらわす問題」、「等式を y について解く問題」など基礎・基本を問う問題において、マイナスの差が多く見られました。2年生の数学では、「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解しているかを問う問題」など基礎・基本を問う問題のほか、「データの特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明(記述)する問題」など、数学的な表現を用いて記述する問題で課題が見られました。また、1年生の数学では、「百分率で表された割合について理解しているかを問う問題」など基礎・基本を問う問題のほか、「高さの等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題」において課題が見られました。

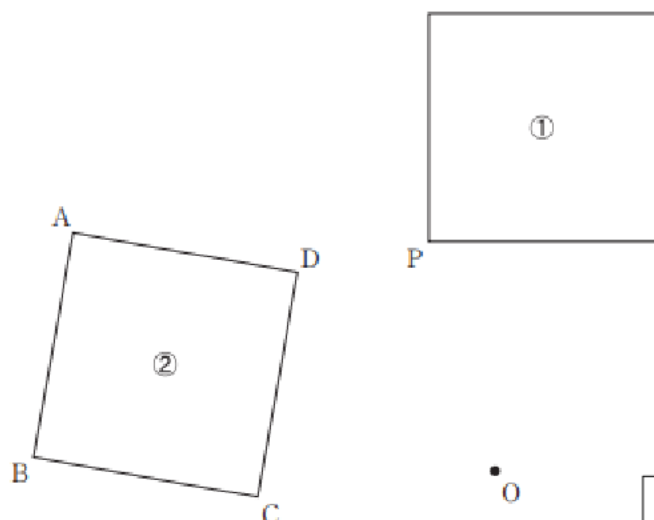
本校では、これらの明らかになった課題をもとに今後の授業づくりに生かしてい

きたいと考えています。

以下に、今回の調査において課題の見られた問題を抜粋して紹介します。

3 次の図で、正方形②は、正方形①を点Oを中心として反時計回りに 80° だけ回転移動したものです。

正方形①の頂点Pに対応する正方形②の頂点を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



- ア 頂点A
- イ 頂点B
- ウ 頂点C
- エ 頂点D

正解 ウ

令和6年度全国学力・学習状況調査数学問題



1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのです。

30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選びなさい。

正解 ウ

令和6年度みえスタディチェック 1年数学問題抜粋

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

14 表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を多数回くり返し、表の出る相対度数を調べます。このとき、相対度数の変化のようすについて、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。
- イ 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。

- ウ 硬貨を投げる回数が増えても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。
- エ 硬貨を投げる回数が増えても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

正解 イ

令和6年度みえスタディチェック 2年生数学問題